

中学校第 3 学年 道德学習指導案
教材名「二人の弟子」
1 主題名

内なる自分に恥じない気高い生き方 【よりよく生きる喜び】 中学校 D (22)

2 ねらいと教材
(1) ねらい

内なる良心の声を聞いて弱さや醜さを克服しようとする二人の弟子の姿を通して、自分自身の内にある誇りある生き方や、人間として生きることの喜びを見いだそうとする態度を育てる。

(2) 教材名

「二人の弟子」(私たちの道德 中学校 文部科学省)

3 主題設定の理由
(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

ありのままの人間は、決して完全なものではない。誰の心の中にも弱さや醜さがある。しかしながら、同時に、人間はその弱さや醜さを克服したいと願う心をもっている。時として誘惑に負け、易きに流れることもあるが、人としてどう生きるべきかを問う良心の責めと戦い、苦しみに打ち勝つことによって、人間として生きる喜びに気付くことができる。そして、人間として生きる喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、気高い存在になり得ると考える。

(2) 生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学年の生徒は、互いの立場や気持ちを大切にすることができる心優しい生徒たちである。人を妬んだり、羨ましく思ったりする感情も当然あらうかと思われるが、集団生活の中でそのような感情を出す生徒はなく、互いに支え合いながら学校生活を送っている。しかし、15年間生きてきた生徒にとって自分に自信がもてず、劣等感にさいなまれたり、人を羨ましく思ったりしたことは、少なからず抱いたことのある感情ではないかと推測する。

まずは、自分の心の内にある劣等感や傲慢さなど自分の弱さや醜さに気付くことが、人間としてよりよく生きるための第一歩であると考え、自分自身と向き合いながら、弱さや醜さを克服したいという心を大切にすると同時に、それらは強さや気高さに変えられるという確かな自信をもつことによって、よりよく生きる喜びを見いだせるようになってほしい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材には、仏門で修行する二人の若者の対照的な生き方が描かれている。一人は、意志の弱さから修行を投げ出し人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲嘆する道信であり、もう一人は、厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、舞い戻った旧友を許せない自分の醜さに苦悩する智行である。対照的な生き方の二人の弟子が、自分の弱さや醜さに向き合い、それを克服し、人間として気高く生きようとする姿勢を通して、生徒たちに人間としての生き方を考える機会を促したい。

4 学習指導過程

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 智行と道信、上人の関係や人物像について整理する。 DVD 13-1	○登場人物について整理してみよう。 【智行】 ・土地の名家の三男で、幼い頃から才覚を発揮。 ・西山寺の上人に師事し、本山での厳しい修行に耐え、立派な僧侶になった。 【道信】 ・先の戦で孤児となり、上人に育てられた。 ・都で評判の「白拍子」を好きになり、本山での修行を途中で逃げ出した。 【二人の関係】 ・同年輩で励まし合いながら学問を続けてきた。	・朝読書で「私たちの道徳」P127. L12までを読ませておく。
展開	2 教材を読み、上人の言動を基に、智行の心の内を考える。 （「私たちの道徳」P127. L14から）	○上人が道信を許したとき、智行が怒りを覚えたのはなぜだろう。 DVD 13-2 ・自分が引き止めたのを振り払い出て行ったのに、今さら帰ってくることを許すことはできない。 ・自分はつらい修行にも耐え、一生懸命頑張ってきたのに、都合のいいことを言うな。 ・これまで好きなことをしてきた道信が許されるのはおかしい。 ◎一輪の白ゆりを見て、あふれる涙を止めることができなかった智行の心の声を考えてみよう。 DVD 13-3 ・上人に許された道信のことを妬む気持ちを抑えられない自分が恥ずかしい。 ・道信は辛い経験をしながらも、また頑張ろうとしているのに、それを受け入れられない自分は心が狭く情けない。 ・道信を許せない今の自分ではだめだ。これからの自分の人生を見つめ直していこう。 ・道信と一緒にまた修行し、自分の心の醜さと向き合って生きていこう。	補助発問 「あなたが智行の立場だったら、道信を許すことはできますか。」 ・立場を明確にした上で、その理由を交流する。 ・グループで話し合ったことをマグシートにまとめ、発表する。 補助発問 DVD 13-4 「智行の涙は反省だけの涙だろうか。」 補助発問 「上人の言った『自分自身と向き合って生きる』とはどういうことだろう。」
終末	3 自分と向き合い、考えたことを友達と交流する。 DVD 13-5	○学習を通して感じたことや考えたことを、これまでの自分について振り返ったり、これから自分が目指す生き方について触れたりしながら書こう。	・「私たちの道徳」P120・121を読み、P131ページに書き込ませる。

【評価】

※自己の弱さや醜さと向き合い、克服しようとしながら、よりよい生き方を探ろうとしている。
（発言・ワークシート）

5 他の教育活動との関連

毎日の活動
(朝練習(体力づくり)・家庭学習)



道 徳
【希望と勇気、克己と強い意志】
「目標を目指しやり抜く強い意志を」(私たちの道徳)

【生徒の道徳的価値についての理解】

<授業前>

- ・朝練習がきつくて、毎日毎日走るのが嫌なときがあるし、休もうかなと思ったこともある。
- ・夢ばかり大きくなるけど、叶えるための努力はしていない。
- ・毎晩、眠気や自分の意志と闘いながら、家庭学習に向かっている。

<授業後>

- ・自分がどう考え、どう行動するか、どう努力するかが大切だと思う。
- ・努力した結果、成し遂げられなかったとしても、その努力は無駄ではなく、自分の力になっていると思う。

総合的な学習の時間
「職場体験学習」



体育科
「運動会に向けて」



【取組後の感想】

- どの競技も最後まであきらめずに白熱した戦いができた。
- いろいろあったけど、夏休みからしっかりと取り組み、創作ダンスを仕上げることができたのでよかった。



【取組後の感想】

- 苦しいのは自分一人ではない、連帯責任という意識で、みんなのためにがんばっている消防署の方たちの姿に感動した。
- 教師というのはとても大変で、「こんなことまでするの!?!」と思うことがたくさんあった。しかし、そのしんどさを乗り越えたときに、ものすごい達成感とこの職業のすばらしさを感じるのだろうと思った。

道 徳
【よりよく生きる喜び】
「二人の弟子」(私たちの道徳)

【解説】

これまで、自分の弱さと向き合い努力することや、仲間と支え合いながら互いに高め合い、成長していこうとする姿勢を大切にしてきた。「二人の弟子」を学習することを通して、さらに人間としての生き方や、これからの自己の生き方についてじっくりと考えさせたい。

6 実践の記録

板書のポイント



【解説】

登場人物の状況を対比的に示すことにより、視覚的に内容理解を支援する。また、生徒の考えをマグシートに書かせて貼らせたり、自分の立場を示させたりすることで、生徒とつくる創造的な板書にし、思考の流れや授業の流れを確認したり、振り返ったりすることができるようにする。

【分析】

導入で、二人の弟子が置かれた状況をスムーズに確認することができた。また、「『もう一度修行したい。』という道信をあなたなら許すことができますか。」という補助発問により、生徒一人一人の立場を「YES」「NO」のところにネームプレートで示させ、その理由を言わせた。全員が自分の考えを発表し、考えを交流させることができた。意見交流することによって、自分の考えが変わった生徒もいた。

【自分の立場をネームプレートで示す】 → 【理由を発表する】



【許せない：NOの立場】

自分たちは一生懸命やってきたのに、逃げるという気持ちが許せません。



【中間の立場】

逃げた後、盗みをしたことは許さないけど、また修行して変わりたいというのはいいと思います。
だから、「YES」寄りの中間の立場です。

事前の教材提示による導入の工夫 DVD 13-①

【解説】

教材が長いため、毎日取り組んでいる「朝読書」の時間を利用して、前段部分（「私たちの道徳」P 126・127）の内容を押さえさせておく。導入で登場人物や状況の整理を簡潔にすることにより、生徒が考えたり話し合ったりする時間を確保する。「朝読書」は10分という短時間であること、授業の中で新鮮な驚きや疑問をもってもらいたいため、全文を読ませることはあえてしない。

【分析】

授業開始5分で前段部分の内容整理ができた。生徒は、その後の展開を知るために、熱心に教師の読み聞かせを聞き、その後の活動を意欲的に進めることができた。

T・T（ティーム・ティーチング）による指導の工夫

【解説】

学級担任（T2）と道徳推進リーダー（T1）が事前に打ち合わせをし、授業の流れに沿って、どこでどのように問い、生徒の反応を受けてどう問い返すか等を確認した。役割分担としては、T1が主発問をし、授業を進める。T2は教材読み、板書、補助発問を行う。

【分析】

特に読み物教材が長く内容が難しいときは、T・Tによる指導は有効であると感じた。役割をきちんと果たし、テンポのよい授業展開にするためにも事前の打ち合わせは必要不可欠である。

話し合いから書く活動へつなげる工夫（問い返しなどの補助発問からねらいへ） DVD 13-③ DVD 13-④

あふれる涙



S1：上人は許したけど智行は許せんかったやんか。上人は広い心をもっているがって。

S2：そうとは限らんろ。適当に許したかも。

S1：上人だって悲しんでいると思うで。期待しちよったがやもん。

S3：この涙って、腹が立った涙やない？

S2：感情的になったことを反省したのかもしれん。

T1：悔しいとか、反省とかいう言葉が聞こえてきたけど、それだけかな？

S1：道信がフキノトウを見て心を動かされたがと一緒に、智行も白ゆりを見てハッとしたがじゃない？

S2：反省だけじゃないって言うたろ？

S1：反省じゃないって。浄化されたがやって。

T2：上人が言った言葉です。「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」この言葉を踏まえて、もう少し考えてみてください。

T1：「人は皆」の皆って誰のこと？

- S：道信。
S：智行。
S：上人も。
S：私たちも。



【グループで話し合ったことをシートにまとめ、発表】

【解説】

中心発問では、自分の心の中の醜さに気づき、よりよい生き方を求めようとする智行の心情に迫らせたい。白ゆりの花を見て、あふれる涙を止めることができなかった智行の心の中を想像しながら、グループで話し合いをさせる。問い返しなどの補助発問によって個人思考を深めさせるようにし、終末につなげる。

【分析】

ねらいに迫らせるために、問い返しなどの補助発問を繰り返す場面となった。これは、智行の心情を「反省」や「後悔」にとどめることなく、自分自身と向き合い、さらによりよい自分の姿を求めて前へ進もうとする智行の心をつかませるために有効であった。

「私たちの道徳」を活用した終末の工夫 DVD 13-5



【解説】

人間の弱さや醜さの部分だけがクローズアップされないように、「私たちの道徳」P120・121を終末で読み、人間として生きる喜びに目を向けさせ、自分自身の生き方について考える活動につなげる。

【分析】

誰の心の中にも弱さや醜さがあることを全体で確認することにより、これまでの自分やこれからの自分の生き方について考えることができた。



【授業後の生徒の記述①】

これまでの自分は相手のことを深く思うことができなかったし、自分の弱い所などを人に見せないようにしていたけど、これからは、相手のことを思えるような広い心をもちたいし、道信のように、何度でも立ち上げられるようになりたい。

【授業後の生徒の記述②】

智行のような心は誰しもがもっているもので、そういった感情をもち合わせているのが人間だと思います。私も自分自身の弱い面を感じる事が多々あります。それも仕方のないことと置いていたけど、これからは自分の弱さを認め、それを受け止め、変わることでできる人になりたいです。道信を見て、人はいつだって変わることができ、遅いなんていうことはないのだということに気がきました。死にたくなるほど辛いときや苦しいときがあったとしても、生きる強さをもっていたいです。